兵庫の治山・林道と森林整備

やまなみ

題字 谷　洋一 会長

竹ノ内山腹工完成写真（朝来市和田山町）

第22号
平成19年6月30日発行

- 平成19年度 林務課 関係予算の概要 …… 2・3
- 平成19年度 豊かな森づくり課 関係予算の概要 …… 4・5
- 平成19年度 治山課 関係予算の概要 …… 6
- 林務治山関係の組織改正ほか …… 7
- 林務治山関係の新任課長・室長あいさつ …… 8・9
- 丹波市青垣町に野生動物保護管理の研究拠点施設がオープン …… 10・11
  （森林動物研究センター業務部長 浅田　卓）
- 里山防災林整備と「里山里池ふれあい学習会」の開催 …… 12・13
  （東播磨県民局地域振興部加古川農林水産振興事務所林業課長 小西 好仁）
- 緑あふれる相生・羅漢の里で「ひょうご森の祭典2007」を盛大に開催 …… 14・15
  （農林水産部農林水産局豊かな森づくり課）
- 有馬温泉里山再生プロジェクト「有馬温泉癒しの森」開設イベントを盛大に開催 …… 16・17
  （神戸県民局地域振興部神戸農林水産振興事務所林業課）
- 兵庫のキノコ（10）（丹波県民局地域振興部柏原農林振興事務所 正井 俊郎） …… 18
- 新緑の氷ノ山林道ウォーク・小雨の中で開催 …… 19
- 姫路菓子博2008・協会だより …… 20

平成19年度 林務課 関係予算の概要

県産木材の利用を促進することが木材産業を振興し、そのことが林業生産活動を支え、林業が農山村地域の活性化をもたらすことから、「産業を支える森づくり」を展開して、伐採・植栽・保育の林業生産サイクルを円滑に循環させる対策を推進します。

1、多面的機能の発揮に向けた森林整備

(1)森林整備の推進

○多様な森林整備

森林に対するニーズの多様化を踏まえ、「水土保全林」「森林と人との共生林」「資源循環林」の観点から、それぞれの機能が効果的に発揮できる望ましい森林を整備する。

- 地域森林計画策定事業　16、954千円
- 造林事業　1、491、010千円
- 重要水源林機能高度化事業　33、000千円

○森林整備のための地域における取り組み支援

森林施業計画に基づいた間伐等を実施するにあたって不可欠な森林の現況把握や施業区域の明確化その他の地域活動を支援するため、市町長との協定を締結した区域の一定林齢の森林面積に応じて交付金を交付する。

- 森林整備地域活動支援交付金　161、250千円

(2)生産基盤の整備

森林整備作業の効率化による素材生産コストの低減、及び労働強度の軽減や安全衛生の確保を図るため、路網や高性能林業機械の整備・拡充への支援を引き続き実施する。

- 造林事業（再掲）　1、491、010千円
- 低コスト経営団地整備事業　17、000千円
- 林業機械システム整備事業　6、200千円
- 林業構造改善対策事業　15、072千円

(3)林業技術の開発と普及

木材等の利用技術や環境に調和した森づくり技術など多様化・高度化する要請に応える研究・開発とともに、林業普及指導員による林業技術の普及活動指導や高性能林業機械・車両系建設機械等の林業技術研修、指導林家等・山村リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者の育成、森林・林業の理解者・支援者を拡げるためのセミナー等を実施する。

- 森林林業技術センター研究費　5、656千円
- 林業普及指導費　8、693千円
- 県産木材活用人材養成事業　1、418千円

(4)風倒木処理対策の実施

平成16年台風被害の被害木等の整理がおおむね完了したことに伴い、跡地造林等の早期完了を図る。

- 造林事業（被害地等森林整備）　589、402千円
- 風倒木緊急処理事業（県単独上積補助）　68、637千円
- 風倒木搬出・集積促進事業　19、038千円

2、林業の担い手の育成と支援

(1)林業労働力の育成

○森林整備の担い手確保対策

林業への本格就業を希望する林業未経験者を対象とした、森林・林業の基礎知識や基礎技能を習得させる基礎研修、並びに就業2年目以降の者を対象とした風倒木処理や掛かり木処理等の安全作業と高性能林業機械を利用した安全な林外搬出作業の研修を実施。

- 森林整備の担い手確保対策事業　2、010千円

○林業労働力の育成

森林整備と林業生産活動の担い手を安定的に確保・育成するため、魅力ある職場をめざして福利厚生など就労条件の改善や労働安全対策をすすめるほか、月給制森林技術者の雇用確保を支援する。

- 林業労働力育成対策事業　2、911千円

・森林技術者確保対策事業
52、710千円

(2)林業事業体の育成・強化

○森林組合の育成

森林組合が厳しい経営環境にある中、組合員の期待に応えうる自立的経営ができる事業体をめざし、合併や中核森林組合への統合などにより経営基盤、執行体制強化を推進し、組織系統全体の育成・強化を図る。

・森林組合等経営基盤強化対策事業
4、027千円
・森林組合機能強化資金貸付金
300、000千円
・流域森林林業活性化推進事業　560千円
・森林組合系統組織指導事業
1、900千円

(3)林業・木材産業の経営基盤の強化

経営基盤が脆弱で資金調達力が弱い林業・木材産業経営者に低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

・林業・木材産業改善資金貸付金
200、000千円
・木材産業等高度化推進資金
907、594千円
・特用林産振興事業
250千円
・県産木材利用促進特別融資事業
100、000千円

3、県産木材利用促進と供給体制の整備

(1)県産木材供給システムの構築

○新たな県産木材の供給システムの構築

川上から川下までが一体となり、品質・価格・供給力で競争力のある「新たな県産木材の加工・流通システム」の実現を目指し、県産木材加工拠点施設の具体的な事業展開を進めるため、参画企業体の公募・選定を行うとともに、参画企業体による事業展開内容を取りまとめた実施計画の策定を支援し、その後の拠点施設づくりへの体制を整えていく。

・県産木材供給センター整備推進事業
2、250千円
・県産木材供給体制整備推進事業
5、780千円

○原木の安定供給体制の確立

森林経営団地を設置し、作業道等の重点開設による高密路網と高性能林業機械を活用した素材生産の低コスト化を進めて原木の安定供給体制を確立する。

・低コスト経営団地整備事業（再掲）
17、000千円
・林業構造改善対策事業（再掲）
15、072千円
・県産木材活用人材養成事業（再掲）
1、418千円

(2)県産木材の利用拡大

○公共施設等木造・木質化50％作戦の展開

県、市町等の公共施設等について、法規制等により木材利用が困難な場合を除き、木造化又は延べ床面積の50％以上に相当する面積を木質化する。

（19年度：2、088、198千円）

○県産木造住宅10倍増作戦の展開

県産木材利用木造住宅特別融資制度の利用促進やモデル住宅見学会、産地見学会等の開催により、平成22年を目途に、平成14年度の10倍に相当する1、500戸の県産木造住宅の建設を目指すほか、県産木材内装材を使ったモデルハウス、モデルルームの設置や、マンション内装工事施工者を対象に施行現場説明会や展示商談会を開催し、民間住宅における県産木材の利用促進を図る。

・県産木材利用木造住宅特別融資事業
6、561、524千円
・住宅等内装木質化促進事業　2、624千円
・マンション事業者等への県産木材普及促進事業
950千円

○暮らしの中に木材を取り入れる運動の展開

木の効能・効果の普及啓発をはじめ、県産木材製品の展示及び木材利用に関する相談活動、学習机等の導入、カタログやビデオを活用した県産木材製品のPR等により県民の多様な県産木材利用を推進する。

また、木の良さがPRできるシンボル施設、学校校舎等を木造・木質化する「木の香るまちづくり」事業を推進する。

(拡)暮らしの中に木材を取り入れる運動推進事業
4、100千円
・木の香るまちづくり事業
160、000千円

平成19年度
林務課当初予算額
12、603、937千円(対前年度比95.3％)

平成19年度 豊かな森づくり課 関係予算の概要

〝森林は県民共通の財産である〟との理解のもと多様な兵庫の地域特性を生かした森の回復と再生を目指す「新ひょうごの森づくり」と「県民緑税」を活用して、森林の防災面での機能強化を図る「災害に強い森づくり」を進めるとともに、人と野生動物と森林等自然環境との共存対策にも取り組み、県民の安心・安全な暮らしを守る「生活を豊かにする森づくり」を推進します。

1、新ひょうごの森づくり

⑴森林管理100％作戦

間伐が必要なスギ・ヒノキ林について、市町と連携して公的資金による間伐実施を徹底するほか、間伐材搬出経費への無利子資金の貸付による間伐材の有効利用を図る。

- 環境対策育林事業（緑化基金）　80、250千円
- 森林適正管理資金　50、563千円
- くらしを支える森づくり事業　4、557、050千円

⑵里山林の再生

荒廃が進んでいる里山林の再生を図るため、水源かん養等の機能はもとより、多くの県民が自然とふれあう場として利活用することを重点に里山林を整備する「里山ふれあい森づくり」等を実施する。

- 里山ふれあい森づくり（ミニ里山公園型）　400、796千円
- 里山ふれあい森づくり（住民参画型）　71、925千円
- 里山林等整備事業　88、300千円

⑶森林ボランティア育成1万人作戦

森林ボランティア活動のすそ野を広げるため、森林・林業の現状と課題、森林作業等の基礎を学ぶ「森林ボランティア講座」や安全な作業を指導する「安全リーダー養成講座」を開催するとともに、県民が身近な場所で年間を通じていつでも活動を体験できる「森林ボランティア活動体験の森」を設置し、県民総参加の森づくりを推進する。

- 拡森林ボランティア活動促進事業　4、519千円
  （森林ボランティア講座）
  （安全リーダー養成講座）
  （森林ボランティア活動体験の森設置）
- 市民森林推進事業　950千円

⑷森林への理解と関心を高める普及啓発

森の大切さや森林整備の重要性について、未来を担う子どもたちから大人にいたるまで広く県民の理解と関心を高めるため、各種のイベントを開催するとともに森林環境学習を進める。

- 「ひょうご森の祭典」開催　2、000千円
- 「ひょうご森の日」推進事業　1、000千円
- 教育のもり整備事業　1、000千円
- 里山学習体験の森推進事業　1、860千円
- 緑の少年団育成事業　1、161千円
- 森のインストラクター養成事業　703千円

2、災害に強い森づくりの推進

平成16年の一連の台風被害を踏まえ、森林の防災面での機能強化を早期・確実に進めるため、平成18年度から導入した「県民緑税」を活用し、「災害に強い森づくり」を推進する。

- 緊急防災林整備　702、000千円
- 里山防災林整備（治山課所管）　702、000千円
- 針葉樹林と広葉樹林の混交林整備（林務課所管）　254、000千円
- 野生動物育成林整備　130、000千円

3、野生動物共生対策の推進

⑴特定鳥獣の保護管理の推進

シカなど生息頭数が地域的に著しく増加している種や絶滅が危惧されているツキノワグマの個体群などを対象に、研究センターの知見を活かした科学的・計画的な個体数管理、被害管理、生息地管理を行う。

- 拡シカ個体群管理事業　16、360千円
- ツキノワグマ出没総合対策事業　3、216千円

㊟サル出没総合対策事業　9、832千円

(2)特定外来生物対策の実施

近年、農業被害や家屋侵入被害等が増大しているアライグマやヌートリアについて、「外来生物法」（平成17年6月施行）に基づく防除を推進するため、市町が実施する捕獲及び処分について支援を強化する。

㊟特定外来生物被害対策事業　4、920千円

4、森林の保全・管理

予算額　42、000千円

(1)保安林の指定等

山地災害危険地区などの保安林指定を進めるとともに、機能低位にある保安林の森林施業の確保、衛星画像データを活用した保安林管理体制の整備等を通じて、保安林の適正な管理、保全を図る。

(2)森林の開発

森林の無秩序な開発を防ぎ、林地の適正な利用を図るため、林地開発許可制度の適切な運用に努める。

(3)森林の保全

林野火災や森林での違反行為の防止等、森林の保全管理を図るため、森林の保全巡視を行うとともに、森林の被災を補填する保険制度を促進し、併せて林野火災予防のための啓発などを行う。

5、森林病害虫被害対策

予算額　177、000千円

松くい虫による平成18年度被害量は、夏季の多雨により抑制されたことや、これまでの防除効果により、昨年に引き続き被害が減少している。しかしながら、気候の変動などの諸要因により被害が再激化することも予想され、いまだ予断を許さない状況にある。

また、穿孔性昆虫のカシノナガキクイムシによるミズナラ等の集団枯損の被害が但馬地域を中心に拡大している。

これらの被害に対応して、以下の対策を実施する。

平成19年度松くい虫防除事業関係計画

区分		事業量	予算額(千円)
予防対策	特別防除	2,583ha	75,154
	地上散布	123ha	8,772
	樹幹注入	7ha	2,806
駆除対策	伐倒駆除	3,860㎥	63,690
	特別伐倒駆除	10㎥	223
	伐採木等駆除	50㎥	193
	県単独被害対策緊急	1,400㎥	8,936
「ひょうご元気松」10万本植栽事業		4,000本	1,000
その他病害虫駆除(ナラ類集団枯損)		300㎥	4,375
その他		−	11,626
合計		−	176,775

(1)松くい虫被害対策

①防除区域での被害対策

保安林等の公益的機能の高い松林や地域経済上重要な松林を防除区域と定めて、特別防除、地上散布、樹幹注入等予防対策に加え、伐倒駆除や造林事業（衛生伐）を組み合わせ、総合的に松林機能の保全を図る。

②防除区域外での被害対策

防除区域への感染源となる周辺松林について、県単独伐倒駆除による駆除及び造林・治山事業の活用による樹種転換の推進を図る。

③自主防除

研修会等の開催を通して普及啓発を図り、森林所有者の自主防除体制づくりを進め、その組織育成に努める。

④『ひょうご元気松』の植栽

被害を受けにくい松林の整備を図るため、抵抗性マツ『ひょうご元気松』10万本植栽事業（19～23年度）を実施する。

⑤県単独松くい虫被害対策緊急事業

周辺区域の駆除事業に加え、景観保全のためにその他区域も含め過年度枯れ被害木を伐倒する。

(2)ナラ類集団枯損対策

自然環境の保全上重要な地域や被害の先端地においてカシノナガキクイムシの被害拡大を防止するための予防・駆除対策を実施する。

平成19年度
豊かな森づくり課（森林保全室）
当初予算額8、808、964千円
（対前年度比101・6％）

平成19年度 治山課 関係予算の概要

平成19年度は、治山課予算として八九億一〇〇万円を計上し、次の施策を積極的に推進する。

1、治山事業の推進（表1）

予算額　六一億一、四〇〇万円

①安全で安心して暮らせる県土づくり、②豊かな水を育む森林づくり、③多様で豊かな環境づくりの3つを基本方針とし、19年度は、前年度に引き続き16年風倒木被害地の二次災害防止対策等を重点的に実施する。

(1)風倒木被害地の二次災害防止

森林整備事業で風倒木の処理を行った跡地を対象とする治山工事の実施と併せて、18年7月豪雨に伴う風倒木被害地での土砂災害発生に対し、崩壊・流木被害を予防するための治山工事を重点的に実施する。

(2)養父市大久保地すべり災害対策

18年10月にハチ高原で発生した大規模地すべり災害に対応するため、18年度補正予算と19年度当初予算により、復旧の完了を図る。

(3)木材の利用拡大

風倒木を利用した丸太筋工や、県産材型枠等の木材・木製品の利用拡大を積極的に図る。

(4)コスト縮減

厳しい予算状況の中、事業量を確保するため、より一層のコスト縮減に努める。

2、林道事業の推進

予算額　二七億八、七六五万円

林業経営、森林の適正な整備・保全、森林空間の総合利用、山村地域の生活環境の改善等を図るため、林道事業を計画的に実施する。

(1)県営林道（表2・3）

県営林道については、国庫補助事業・道整備交付金と県単独林道事業（ふるさと林道緊急整備事業）を効果的に組み合わせて整備促進に努める。

また、森林基幹道沿線において、作業道等の接続拠点までの短距離の支線林道や高性能林業機械が安全で効率的に作業できる拠点・土場を「路網拠点林道」として整備する。

(2)市町営林道

市町営林道については、道整備交付金・里山エリア再生交付金を組み合わせて整備促進に努める。

（表1）平成19年度治山事業実施計画

区分		事業細目	箇所数	事業費(千円)
山地治山	復旧	復旧治山	23	
	予防	予防治山	17	
	水土保全治山	地域防災対策総合治山	3	
		林地荒廃防止	10	
水源地域等保安林整備	水源地域整備	水源流域広域保全	3	
		水源流域地域保全	1	
		奥地保安林保全緊急	16	
	保安林整備	保安林改良	15	
		保育	15	
防災林整備	共生保安林整備	生活環境保全林整備	1	
		環境防災林整備	1	
離島振興	復旧	復旧治山	2	
	保安林整備	保育	1	
地すべり防止			4	
災害関連緊急治山等事業			14	
小計			126	5,737,039
県単独治山		県営治山	11	204,000
		補助治山	16	70,000
		風倒木被害地対策治山	10	103,000
		小計	37	377,000
合計			163	6,114,039

注）平成19年度計画は当初予算ベース。

（表2）森林基幹道の整備状況

路線名	全体計画			平成18年度までの実績		平成19年度
	延長(m)	総事業費(千円)	期間	延長(m)	進捗率(%)	延長(m)
三川線	29,500	5,840,000	S47～H20	27,999	94.9	1,100
笠形線	34,358	7,198,000	S51〔52〕～H18	34,358	100.0	－
須留ヶ峰線	24,000	4,600,000	H1〔2〕～H25	8,888	37.0	960
池ノ尾線	17,100	5,220,000	H3〔4〕～H22	12,239	71.6	1,100
千町・段ヶ峰線	16,800	4,200,000	H4〔5〕～H25	12,632	75.2	1,130
千ヶ峰・三国岳線	34,800	9,600,000	H8〔9〕～H27	5,922	17.0	709
計	156,558	36,658,000		102,038	65.2	4,999

※期間の〔　〕は着工年度で、その前年度は全体計画調査のみ。
平成18年度末は、実績見込み延長。平成19年度計画は当初予算ベース。

（表3）過疎代行林道の整備状況

路線名	全体計画			平成18年度までの実績		平成19年度
	延長(m)	総事業費(千円)	期間	延長(m)	進捗率(%)	延長(m)
八木谷・大谷線	14,946	3,024,000	S61～H24	11,307	75.7	800
仏ノ尾線	10,797	1,790,490	H2～H18	10,797	100.0	－
床尾線	14,249	2,687,466	H2～H19	13,566	95.2	683
粟鹿山線	12,600	3,160,000	H3～H25	6,657	52.8	800
中辻・肥前畑線	15,867	3,141,800	S62～H19	15,208	95.8	659
前地・カンカケ線	15,300	4,000,000	H12〔13〕～H27	2,918	19.1	890
計	83,759	17,803,756		60,453	72.2	3,832

※期間の〔　〕は着工年度で、その前年度は全体計画調査のみ。
平成18年度末は、実績見込み延長。平成19年度計画は当初予算ベース。

▲復旧工事が完了した姫路市安富町皆河地区
台風23号災(H16)

林務治山関係の組織改正 ほか

県農林水産部農林水産局内に属している林務・治山関係組織が、平成19年度から大幅に改正されました。平成15年4月から設置されていた森林動物共生室がなくなり、丹波市青垣町に森林動物研究センターが新たに開設されました。

また、豊かな森づくり室が豊かな森づくり課となって、森林保全室が所掌していた事務が同課に統合されました。

この結果、県庁内の林務治山関係組織は、従来の林務課、豊かな森づくり室、森林動物共生室、治山課、森林保全室の2課3室体制から、林務課、豊かな森づくり課、治山課の3課体制となりました。

森林動物共生室が所掌していた事務は、森林動物研究センターと豊かな森づくり課・野生鳥獣係に引き継がれ、従来、森林保全室が所掌していた事務の保安林、森林保全、森林保護については、全て豊かな森づくり課に移行し、その事務を統括する役職として森林保全室長が設置されました。

また、職制の見直しにより副課長制が復活し、正式な名称ではありませんが技術と事務の副課長がそれぞれ1名、3課に設置されました。各課内では、それぞれ係の見直しが行われ、19年度の各課係の名称は、以下のとおりとなっています。

林務課	豊かな森づくり課	治山課
課付	課付	課付
林政係	普及啓発係	計画調査係
計画係	整備係	治山係
造林係	野生鳥獣係	林道係
構造改善係	保安林係	但馬地域山地 地すべり対策室
林業専門技術員	森林保全係	
県産木材係	森林保護係	
林産係		
木材流通係		

平成16年台風23号等による森林災害（風倒木）復旧事業の検証報告書の作成について（お知らせ）

兵庫県は平成16年に発生した相次ぐ台風の襲来、とりわけ台風23号の強風により、かってない風倒木被害を受けました。平成16年から3ヵ年で復旧事業を進め、一部繰り越しをしましたが、平成18年度でほぼ復旧事業が完了しました。

このたび、林業専門技術員、森林林業専門員等を構成員とする「全県プロジェクトチーム」を編成し、「風倒木の処理・搬出、ストックポイントの設置」について復旧事業を検証し、その結果が左記報告書としてまとまりましたのでお知らせします。

本報告書は、要約版と本報告書の2部構成（左記表紙写真参照）となっており、「はじめに」で本報告書の対象とする事業、県における風倒木等被害の対策、被害対策事業の検証等を簡単にとりまとめています。

次に、第1章では「風倒木処理作業」を、第2章では「ストックポイント設置」について、検証の目的や調査内容・方法等について記述するとともに、調査結果と今後の課題について取りまとめています。

また、「おわりに」では、今後の災害発生に備えて、被害調査の新たな手法への提言や被害対策マニュアルの作成など具体的な提案が示されています。

なお、このたび発刊した報告書は、県下各県民局、市町、森林組合に配布し、今後の災害発生時に活用していただきます。

兵庫県立農林水産技術総合センター
森林林業技術センター　普及部

報告書（A4版:87頁）

報告書（要約版）
（A4版:16頁）

林務治山関係の新任課長・室長あいさつ

林務課長就任のごあいさつ

菅原　健

平素は、本県の森林・林業行政の推進に格別のご支援とご協力を賜り、また、平成16年の風倒木被害復旧にご尽力、ご協力賜り、ほぼ大方の復旧が完了できましたことに厚くお礼申し上げます。

森林資源の成熟化が進み、その蓄積が1億㎥に達しようとする状況の中で、県では、県産木材の利用促進を核として、伐採・造林・保育の循環型森林経営を確立し、今こそ、林業・木材産業の再生を目指す新たな局面を迎えているのではないかと考えています。

折りしも、国際的な木材需要の増大等を背景に、外材輸入が困難な状況が続いており、木材需要の太宗を占める住宅部材における外材シェア奪還のチャンスを迎えていると言えます。

本県では、昨年度、品質・価格・供給力で外材に対抗できる製品を生産する県産木材供給センターの事業化シミュレーション調査を実施し、採算性等を確認し、その内容を広く公表いたしました。

また、その過程では、検討状況等を明らかにし、関係者のご意見を踏まえ進めてきたところです。実施事業体の公募・選定や事業実施計画作成支援を行い、平成22年度操業に向けて進めていきたいと考えています。

実際のセンター運営は、民間企業の機動的な経営力が不可欠であり、川上から川下までの林業・木材関係者の一体的な取組と原木の安定供給対策が重要な課題であると認識しています。

一方、国では、京都議定書の第一約束期間が近づき、森林吸収源対策としての森林整備の加速的実施を求めており、温暖化防止対策としても森林整備の重要性、緊急性が注目されています。

このような中、県としましては、間伐など森林整備の推進、担い手の育成、原木の安定供給、県産木材の需要拡大などを一層強化して進め、兵庫県林業・木材産業の再生に向かって全力で進めてまいる所存ですので、今後ともご指導ご協力賜りますようお願い申し上げます。

豊かな森づくり課長就任のごあいさつ

浦杉　圭作

このたび〝森林整備への公的関与の充実〟と〝県民総参加の森づくりの推進〟を基本方針とした

「新ひょうごの森づくり」を進める旧豊かな森づくり室を核に、旧森林動物共生室のうち鳥獣保護行政に関する事務、さらに保安林の指定や適正な林地開発行為の指導、森林病害虫の防除等を所管する森林保全室を加えて、新しく「豊かな森づくり課」が誕生しました。これは、「森をつくる」と「森を守る」は一体的、二元的に行ってこそより高い効果が発揮できる、という知事自らの発想によるものと聞いております。

平成14年度から取り組んでいる「新ひょうごの森づくり」は計画期間の中間点を過ぎ、①森林管理100％作戦、②里山林の再生、③森林ボランティア育成1万人作戦の三大作戦ともほぼ計画通り順調に進捗しています。国においても「美しい森林づくり推進国民運動」を展開し、今年度から向こう6年間で330万ヘクタールの間伐を実施して間伐の遅れを解消する方針を打ち出しました。これを追い風として、全国に比類の無い究極の公的関与である環境対策育林事業を市町との連携のもとに着実に実施するなど、県民総参加による公益的機能を高度に発揮できる森づくりという施策目標の実現をめざしてまいります。

また、森林保全を社会全体で支える仕組みとして導入した「県民緑税」は2年目を迎え、これを活用した「災害に強い森づくり」の推進にあたっては、整備効果の検証を進めるとともに、展示効果の高い箇所において事業の趣旨や整備内容を記載した解説版を設置するなど、県民緑税の必要性や使途について一層の普及啓発を図ってまいります。

さらに、4月にオープンした「森林動物研究センター」の研究成果を活かした科学的で計画的な野生動物の保護管理業務並びに森林保全室の業務を併せて「生活を豊かにする森づくり」を総合的に推進する「課」としてスタートいたしましたので、ご支援ご協力をよろしくお願いします。

豊かな森づくり課森林保全室長就任のごあいさつ

長尾　達三

このたび、農林水産局豊かな森づくり課森林保全室長を拝命いたしました長尾でございます。

平成17年に、地球温暖化を防止する温室効果ガスの削減を義務づけた京都議定書が発効され、森林は二酸化炭素の吸収源として大いに期待されております。

また、本県では「緑」の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして「県民緑税」を創設し、「緑」の保全・再生を早期に、そして計画的に推進しております。

保安林については、水資源のかん養、災害の防備、生活環境の保全等、森林の持つ公益的機能を最大限に発揮させるため、保安林指定の一層の促進を図るとともに、適正な管理を進めております。

森林の適正な開発・火災予防については、景気が上向きに推移するなかで開発事案は増加傾向にありますが、開発行為が適正なものとなるよう引き続き指導するとともに、森林の巡視や市町との連携により開発行為の把握に努め、森林の適切な保全を進めてまいります。

さらに多発傾向にある林野火災については、看板・標識の設置、広報活動などにより啓発を図るとともに、森林被害を早期に復旧するため森林国営保険への加入を積極的に促進してまいります。

森林病害虫対策については、松くい虫被害対策に対して保安林など重要な松林、木材資源として優良な松林等を防除区域として、重点的かつ効果的な予防・駆除対策を図るとともに、但馬地域を中心に顕在化しているカシノナガキクイムシによる広葉樹被害に対しても予防・駆除対策を進め、松くい虫被害を受けにくい抵抗性マツ『ひょうご元気松』の植栽などと併せて、総合的な被害対策を進めます。

適切な森林保全施策の推進により、森林の多様な機能の維持増進が図られることを祈念申し上げ、就任のごあいさつといたします。

治山課長就任のごあいさつ

船田　穣

このたび、治山課長を拝命し、決意を新たにしております。

平素は、県行政の推進、とりわけ森林行政の推進につきまして、格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成16年の一連の台風災害につきましては、林道の法面崩壊や路肩崩壊の272箇所は17年度末に、山地崩壊等による林地被害の504箇所は昨年度末に復旧を終えたところです。特に、風倒木の処理につきまして多大のご尽力をいただいたことを御礼申し上げます。

治山事業につきましては、①安全で安心して暮らせる県土づくり、②豊かな水を育む森林づくり、③多様で豊かな環境づくり、を基本方針として計画的、積極的に実施しておりますが、先の災害を受け、安全で安心して暮らせる県土づくりに重点をおき、山地災害危険地区の工事着手に努めてまいります。また、地球温暖化防止対策として二酸化炭素の森林吸収源対策のため森林整備にも積極的に取り組むこととしております。併せて被害の未然防止のため山地災害に係る情報の普及啓発にも取り組んでまいります。

林道事業につきましては、林業の生産基盤として、その整備は喫緊の課題であります。林内路網の骨格をなす森林基幹道の整備促進に努めるとともに、市町営事業につきましても開設・改良を推進してまいります。

治山・林道事業での木材の利用につきましても、間伐材型枠や木柵工など使用可能な部分で積極的に木材を利用することとしております。

今後とも皆様の一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申しあげ、就任のご挨拶といたします。

丹波市青垣町に野生動物保護管理の研究拠点施設がオープン

森林動物研究センター業務部長　浅田　卓

1．兵庫県のワイルドライフ・マネジメント

兵庫県は豊かな自然や変化に富んだ地形に恵まれ、40種の獣類の生息が確認されていますが、シカやイノシシなど増加の著しい野生動物による農林業被害、絶滅が危惧されるツキノワグマによる人身被害や精神被害、人を恐れないサルの群れの出没など様々な問題が生じています。

そこで、人と野生動物と森林など自然環境の調和の取れた共生社会を実現するために、平成15年度に農林水産部農林水産局に森林動物共生室を設置するとともに、学識者や関係団体で構成する検討委員会を設置し、先進地としてのドイツ南部の調査を経て、科学的な根拠に基づいた保護管理施策である「ワイルドライフ（野生動物）マネジメント（保護管理）」を推進してまいりました。

2．森林動物研究センターがオープン

その推進体制の柱となるのが研究拠点施設の「森林動物研究センター」であり、平成16年6月に整備基本方針を、その後基本計画、基本設計を策定しました。平成17年11月には、丹波市青垣町沢野において、県土整備部及び県土地開発公社が設計・施工監理し、研究センター建設工事に着手いたしました。約1年半の施工期間を経て平成19年3月に竣工し、去る4月24日、桜は散りましたが新緑に囲まれた中で、開所記念式典を開催いたしました。当日は、井戸知事を始め石原県議会副議長、辻丹波市長、谷会長にご挨拶をいただき、総勢約１００名の出席を得てお蔭様で盛会裏に終了いたしました。

研究プロジェクト紹介・セミナー室

開所記念式典・玄関前のテープカット

展示コーナーでの説明

記念植樹・ウワミズザクラ

3．研究センターの施設概要

研究センターは、旧青垣町、現丹波市のご理解とご支援を得て県が先行取得した沢野・中佐治特定用地の一角に位置しています。北近畿豊岡自動車道の開通により最寄の青垣インターまで5分、交通アクセスは県内のほぼ全域が2時間圏内に含まれます。構造的な特色としては、県産材を活用した木造平屋建てで、延べ面積は1、585㎡です。また、豊かな緑に囲まれた特色を活かすため、建物外観は自然なアースカラーを基調とし、駐車場にはグラスパーキングを、場内道路には脱色のアスファルトを用いており、併せて、太陽光発電設備や雨水利用装置を配備するなど環境対策にも配慮しています。

また、ロビーの展示スペースには、本県に生息している主な在来の野生動物や外来動物の剥製と研究や普及の成果を展示し、セミナー室では様々な野生動物に関わる研修会や講演会などを研究センター主催で行うこととしています。この他に、研究員室、専門員室、

森林動物研究センター全景

実験室、収蔵室、会議室等を備えておりますが、一般県民向けの公の施設ではないので、展示コーナーやセミナー室を除き、あくまで庁舎的な利用形態をとっています。

さらに、昨年度末に県土地開発公社から用地購入した沢野・中佐治特定用地（126ha）は、スギ・ヒノキ人工林主体であることから、野生動物の生態や生息地としての森林環境の整備手法を探る実験・調査フィールドの位置づけで一部先行して整備しました。

フィールド周囲には、京都府福知山市境を始めとした山中を除き、農地との境界沿いに景観対策型獣害防止柵（アグリガード）2、100mを含めた約4、000mの柵を設置するとともに、研究センター周辺の山林は災害に強い森づくりの工法を採用して整備しています。

研究センターロビー

実験・調査フィールド

フィールド内では、平成15・16年度の緊急雇用創出事業を活用して、皆伐、間伐を伴う80m×90mの実験区を4箇所設定し、人工林を広葉樹林に転換する先行実験を行っています。部分的には金網柵で囲んでシカ等の侵入を防ぎ、シカの食害を受けるエリアとの下層植生の種類や生育状況の差異を調査中ですが、写真にあるとおり試験的に植栽したクヌギが柵内では大きく成長し、柵外ではシカの食べないタケニグサの中に埋もれている等、明確な対比を見せています。今後は、県民緑税を活用した野生動物育成林の整備を始め、生息地管理を行っていく上で必要な事業の参考となる研究に活用していく予定です。

実験区の状況

4．研究センターの組織概要

研究センターは、全県域を所管する農林水産部の地方機関として位置づけられ、主たる調査研究機能を発揮するため配属される研究員は兵庫県立大学自然・環境科学研究所教員でもあり、野生動物を専門分野とする研究者6人を全国から公募選考しました。類似施設としては、県教育委員会所管の県立人と自然の博物館及び県立コウノトリの郷公園、県土整備部所管の県立淡路景観園芸学校などがあります。研究員は、野生動物の生理生態や個体群動態を始め森林環境、社会環境など幅広い分野で研究しますが、研究成果を野生動物被害対策や総合的な計画づくりの裏付けとなる基礎データとして活用し、研究センターにおける説明会やホームページでの情報発信を行うこととしています。

また、機能のもう一つの柱となるワイルドライフ・マネジメントの実践を指導する専門技術者として、5人の森林動物専門員を当センターの開所に合せて新しく誕生させました。

一方、各県民局等においては、野生動物育成林整備などを指導する林業普及指導員22人が森林動物指導員を兼務します。

なお、センター所長に東京大学総合研究博物館長でヒトと動物の関係学会の初代会長でもある東京大学大学院農学生命科学科の林良博教授をお迎えし、名誉所長には県立人と自然の博物館長時代からこのプロジェクトを終始ご指導いただいた京都大学の河合雅雄名誉教授に就任いただきました。

5．今後の取組方針

今後は、センター機能の中軸を担う研究員と森林動物専門員、県民局の森林動物指導員や関係職員、さらに市町、地域住民が連携しながら農林業被害の軽減を図りつつ、森林を主体とした環境の中で調査研究と実践活動を展開し、人と野生動物が共生する社会の実現を目指していきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】
所在地／〒669－3842　丹波市青垣町沢野940
電　話／0795－80－5500
FAX／0795－80－5506
備　考／土日、祝日、年末年始は休館

里山防災林整備と「里山里池ふれあい学習会」の開催

東播磨県民局地域振興部加古川農林水産振興事務所林業課長　小西好仁

1、はじめに

兵庫県では、豊かな「緑」を次の世代に引き継いでいくため、県民共通の財産である「緑」の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして平成18年度から「県民緑税」を導入しました。今回は、東播磨県民局で行った「県民緑税」を活用した「災害に強い森づくり」（里山防災林整備）の取り組みについて概要を報告します。

写真１　竹林の整備前の状況

写真３　竹林の整備後の状況

写真2　アカマツ林･コナラ林の整備前の状況

写真4　アカマツ林･コナラ林の整備後の状況

2．里山防災林整備について

事業地は、加古川市志方町高畑地区でＪＲ加古川駅から北西へ約５㎞に位置し、水田と里山が広がるのどかな田園地域です。高畑地区の南側には標高約１０５ｍの通称「向山」と呼ばれる里山があり、昭和30年代頃は薪炭林として利活用されていましたが、その後、人々の暮らしと里山との関係が薄れ、現在まで放置された状態となっていました。

このため、集落近くの事業地北側にはマダケやモウソウチクが旺盛に繁茂し、枯死木や枯れ竹等が多く見られ、竹林への出入りもできない状況でありました。（写真１参照）また、竹林上部から山頂部及び事業地西側から山頂部へ通ずる斜面は、アカマツ、コナラ、アベマキ等の高木林が優占していますが、アカマツはマツクイムシによる食害で枯損木や倒木が多く、常緑広葉樹であるアラカシ、ヒサカキ、ソヨゴ等も多く生育していました。（写真２参照）

竹林の整備は、枯れ竹等の整理伐、老齢竹の抜き切り等を行い、風通しが良く、集落から斜面などが見通せる竹林、タケノコ採りも楽しめる竹林に整備しました。（写真３参照）

さらに、事業地北側の竹林上部から山頂部及び事業地西側から山頂部へ通ずる斜面は、マツクイムシによる枯死木の伐倒や倒木の整理を行い、常緑広葉樹であるソヨゴ、ヒサカキ等を除伐し林内を明るくして、表土流出の少ない、林床植生の豊かな森林、防災機能の高い森林へ誘導するための整備を行いました。（写真４参照）

写真６　木柵工施工状況

写真７　管理歩道

写真５　カゴ枠工施工状況

また、集落と連続する北側の斜面部及びスリバチ池の沢部などで、過去の崩壊跡や浸食跡が確認されたため、下流への土砂流出防止を目的にカゴ枠工、木柵工を設置（写真5・6参照）し、林地の斜面崩落や地割れ等を早期発見するための歩道整備（写真7参照）を行いました。

3．学習会の開催について

さる5月19日（土）には整備された「向山」を活用し、里山やため池の役割を学ぶ学習会「いなみ野ふるさと里山里池ふれあい学習」を開催しました。

学習会では、地元高畑町内会員、子供会など家族連れら約80名（写真8参照）が参加し、地元子供会によるヤマザクラの記念植樹（写真9参照）の他、ひょうご森のインストラクター尾崎好靖講師による植生や樹木の説明などの森林環境学習（写真10参照）、治山林道協会による土石流実験装置を活用したシミュレーションによる山地災害防止の学習（写真11参照）を行いました。

さらに、スリバチ池の前では環境保全に取り組む播磨ウエットランドリサーチ会員を講師とした、ため池の役割や生息する水生動植物などの自然環境学習を行い、里山とそれにつながるため池といった地域全体の自然環境の大切さについて学んでいただきました。（写真12参照）

最後になりましたが、学習会開催にあたり、地元高畑町内会、社団法人兵庫県治山林道協会をはじめ、関係の皆様方にご協力いただきましたことについて、心から感謝申し上げます。

写真8 里山里池ふれあい学習参加者

写真9 ヤマザクラ植栽

写真10 森林環境学習

写真11 土石流実験の状況

写真12 ため池に関する自然環境学習

整備の概要

事業区域面積：17.26ha
整備内容：森林整備（竹林の整備、アカマツ林・コナラ林の整備）
整備面積：10.64ha
施設整備：案内板２基、指導標９基、ベンチ４基、カゴ枠工３㎡、水路工44m、木柵工496m
管理歩道：1,862m（新設1,682m、既設234m）
事業費：基本計画調査 4,347千円
整備造成 21,546千円
合計 25,893千円

緑あふれる相生・羅漢の里で「ひょうご森の祭典2007」を盛大に開催

農林水産部農林水産局豊かな森づくり課

森の機能や役割を改めて認識し、森と人との豊かな関係を回復するとともに、かけがえのない森を次の世代に伝えていくため、兵庫県、相生市、（社）兵庫県緑化推進協会の主催による「ひょうご森の祭典２００７」が、５月20日、相生市矢野町瓜生「羅漢の里」で、県下各地から約４、５００人の来場者を迎え盛大に開催されました。

この祭典は、県民総参加で森を守り育てる「新ひょうごの森づくり」の一環として開催されているものですが、とりわけ平成16年の一連の台風による森林被害が甚大だったため、災害防止に果たす森やみどりの役割と持続的な森林整備の重要性が再認識されたことから、昨年度導入された県民緑税による「災害に強い森づくり」など新たな施策への理解と協力を求める意義深い祭典ともなりました。

本年の祭典会場は、１・５kmに及ぶ「かかしロード」沿いに配置され、散策しながらのアクセスが祭典テーマ「せせらぎと　緑の森が　育む命」を実感させてくれました。

特に、当日は、「羅漢の里もみじまつり」でおなじみの〝かがし〟が来場者を迎えてくれ、せせらぎ沿いの豊かな緑と多彩な催しが来場者を楽しませてくれました。

祭典は、羅漢の里研修センターから式典会場への県警音楽隊のオープニングパレードに始まり、式典会場では、おなじみの宝塚音楽学校コーラスのほか、地元・瓜生自治会獅子舞、芸能集団野華和太鼓や蓮華よさこいなどが披露され、祭典が盛り上がりました。

記念式典は、西村農林水産部長の開会宣言で幕開けし、主催者あいさつで、始めに井戸知事から、「地球温暖化など深刻な環境問題に触れ、県民一人ひとりが日頃の活動を見直し、森林という自然と如何に付きあうかを考え、我々が自然に生かされていることを再確認することが大切であり、そういう1日にして頂きたい」と訴えられた。

また、地元の谷口相生市長は、歓迎の言葉に加え「瀬戸内海の美しい海や豊富な幸は、豊かな森林との関わりの中で保たれていることを話し、森とのふれあいや多くの体験を通じて、森と海、森と人との共生の大切さを学んでほしい」と呼びか

県警音楽隊オープニングパレード

宝塚音楽学校コーラス

井戸敏三知事挨拶

谷洋一会長来賓祝辞

そまびと競技大会

けられた。

表彰行事では、緑化作品コンクールをはじめ、林業関係功労者、祭典テーマ入賞者等の表彰や森の名手・名人、林業士の認定などが行われました。来賓祝辞では、林業関係団体を代表し、谷洋一会長が、「新ひょうごの森づくりや、県民緑税による『災害に強い森づくり』への評価や県産木材の需要拡大を目指した新たな「県産木材供給センター構想」への期待と協力について、力強く呼びかけられた。

この後、県下の緑の少年団が団旗を持って力強く入場し、「緑の誓い」として相生市緑の少年団が代表して、「私たちは、大昔から人と自然のつながり合いのなかで生き、豊かな自然の恵みを生きる糧として支えられてきた。私たちの使命は、大地とともにこの豊かな森と緑を守り育て、豊かな兵庫の森と緑を次世代に引き継ぎます」との主旨を宣言した。

式典終了後、井戸知事や谷口市長らが、せせらぎ沿いの森に、緑の少年団と一緒に、モミジやツツジの苗木を記念植樹された。

本祭典のイベントは、「森を学ぶ」「森にたずさわる」「森に触れる」「森で過ごす」をテーマに、県下各地域の50数団体が出展し、地域特産品の販売やパネル展示、実演などをはじめ、木工教室や竹細工教室などの体験コーナーや丸太の早切りを競うそまびと競技大会などに多くの方の参加を得て終日賑わいました。

また、緑あふれる周辺の里山林では、森林観察会やネイチャーゲーム、森林ボランティア体験など森にふれあいながら森の大切さ等について学ぶ活動に多くの皆さんの参加がありました。特色有る展示としては、間伐材など地域材を有効活用して、製材加工も簡単で、耐震性を有し施工も簡易な「J・pod工法」の展示に、多くの方の関心が寄せられました。

平成20年の「ひょうご森の祭典」は、なだらかな里山林に恵まれた小野市で開催されることに決まりました。

緑の少年団誓いのことば

竹細工体験

芸能集団野華　和太鼓

J・pod工法

蓮華　よさこい

森林ボラティア体験

有馬温泉里山再生プロジェクト「有馬温泉癒しの森」開設イベントを盛大に開催

神戸県民局地域振興部神戸農林水産振興事務所林業課

兵庫県と（社）兵庫みどり公社が、平成18年度に有馬温泉の里山林を整備した「有馬温泉癒しの森」の開設イベントが、6月3日（日）に開催されました。

当日は、開設記念式典をはじめ、講演会、癒しの森での体験など多彩な催しが行われ、好評を博しました。

「有馬温泉癒しの森」は、神戸農林水産振興事務所が、有馬町自治協議会の所有山林において、県民が里山林と親しむことを目的とした二つの事業（①里山ふれあい森づくり事業（ミニ里山公園型）、②みなもとの森整備事業）を同時に施工し、除間伐・枝払い等の森林整備、遊歩道、休憩所、案内板の設置などの整備をした面積53ヘクタールに及ぶ森林です。

開設記念式典

この日、午前中は有馬小学校の講堂で有馬町自治協議会と有馬温泉観光協会の主催による開設記念式典が開催され、地元関係者をはじめ有馬の自然、歴史、文化を学ぶ有馬学講座の参加者等約200名が出席して、盛大に執り行われました。

式典に続いて、有馬学講座の講演会が行われました。

兵庫みどり公社の近藤伸一参事が「六甲山の災害と自然環境」と題して講演し、太古の六甲山の姿、江戸時代末期からの乱伐や草木の採取によるはげ山化の状況、これを緑の山に戻すために明治時代から営々と行われてきた治山や砂防事業、昭和13年と42年の大水害、阪神淡路大震災の山崩れや復旧工事の状況など先人が100年以上に亘る長い間、取り組んできた尊い仕事に加えて、六甲山に生息する昆虫や草木の解説など、明治からのモノクロ写真や貴重な写実画を織り交ぜて、パワーポイントでつぶさに説明され、出席者が熱心に聴き入っていました。

近藤氏の講演

午後は、「森の体験コーナー」が、式典会場から約1・6㎞離れた紅葉谷にある射場山堰堤の堆砂敷（＝ロープウェー有馬温泉駅の南0・7㎞）に設けられ、森のインストラクターによる草木染め、ロープワー

森の体験コーナーに集まった参加者

クや関係者による記念植樹などが行われたのに併せ、この一角で、（社）兵庫県治山林道協会が、兵庫県六甲治山事務所の協力を得て土石流実験装置の実演を行いました。

この模型装置は、土石流が発生した際に、治山ダムが設置されていることにより災害を防ぐことが実感でき、参加者は、午前中の講演で学んだ土石流災害や治山ダムの有様を模型装置の実演に見入って、一層、認識を深め、人だかりの中で歓声がわいていました。

また、六甲治山事務所は、現在も六甲山系で数多くの治山事業を施工していることから、実験装置のテント周りにパネルを展示して、治山事業の説明と普及啓発に努めました。

この日は、雨が時折パラつくあいにくの天気となりましたが、この後、「有馬温泉癒しの森」ハイキングが始まり、参加者は次々と元気よく出発して行き、遊歩道の要所では、ボランティア等が当地の施設、史跡及び動植物等の解説をしました。特に、山腹工事の土留石積の施工地では、六甲治山事務所の職員が、この地で先人が刻んだ緑化事業について説明し、参加者の理解を深めてもらいました。

このイベントは、里山林の開設記念がメインではありましたが、「災害についての講演」、「土石流実験装置の実演」、「治山事業のパネル展示」「土留石積の説明」などから、六甲山系では治山や砂防事業等が、私たちの生活や環境を守っていくうえで深い関わりをもっていることを多くの人々に示すなど治山事業の重要性をPRできた有意義な一日となりました。

記念植樹

草木染め

土石流実験装置の実演

森の体験ハイキング

兵庫のきのこ（10）

丹波県民局地域振興部柏原農林振興事務所　正井俊郎

19、子のう菌類

有性生殖の結果生じる胞子が、子のうと呼ばれる細胞内に作られるものを子のう菌と言います。子のう胞子は通常、子のうの中に8個づつ作られます。今までに約500種類のキノコを作る子のう菌が、日本で見つかっていますが、県内ではまだ、60種類くらいしか見つかっていません。

子実体が椀形～皿形をしたニセキンカクアカビョウタケやベニチャワンタケ、キチャワンタケなどのキノコは、茶碗や皿の内側に子のうがぎっしり並びます。トガリアミガサタケなどのアミガサタケ科のキノコでは、頭部の網目の中の窪んだ部分に子のうができます。最近、姫路市で見つかったイボセイヨウショウロなどのトリュフの仲間は地下生で、内部に子のうができます。

子のう菌の中には特異な生態を持ったオオセミタケやサナギタケなどの冬虫夏草と呼ばれるグループがあります。冬虫夏草の仲間は昆虫やクモなどに寄生して成育し、栄養を吸収しキノコを作ります。虫の外皮を突き破って侵入し、虫の体内で菌糸体ではなく、酵母のような形で増殖し、虫を殺し、最後には菌糸体にもどり、栄養を吸収すると言われています。恐ろしい生態を持っていますが、森林害虫の生息数をコントロールする大切な役割を担っています。

今回まで、10回にわたって県内のキノコの紹介をさせていただきましたが、いよいよ最終回となりました。説明等の至らぬ点も多々あったかと思いますが、お付き合いいただきありがとうございました。（完）

カキノミタケ（マユハキタケ科）
カキの種子から生じるキノコ。写真のものは不完全世代の分生子柄束であるが、有性世代の子のう果はコブ状となる。

ニセキンカクアカビョウタケ（キンカクキン科）
広葉樹の落葉落枝に発生する直径数ミリの小さなキノコ。子のう盤は皿状で赤橙色、柄は白色、根元は黒色である。

ベニチャワンタケ（ベニチャワンタケ科）
腐朽木や落枝に発生する椀形のキノコ。内面は鮮やかな紅色、外面には白い綿毛があり白っぽく見える。

キチャワンタケ（ピロネマキン科）
春～初夏に林内地上に生える全体が橙黄色のキノコ。直径2～4センチの浅い椀形で、柄はなく、傷つけると緑変する。

オオゴムタケ（クロチャワンタケ科）
夏～秋に、腐朽の進んだ倒木などから生える。子のうは上部の平らな部分にできる。内部は寒天状で、食べる人もいると言う。

オオセミタケ（バッカクキン科）
春に林内地上に生える冬虫夏草の一種。アブラゼミなどの幼虫から生じる。京都府の一部では焼酎に漬け、薬用としていると言う。

＊ホームページ「Mushyのキノコ写真ギャラリー」
http://www5b.biglobe.ne.jp/~tmasai/indexj.html もご覧下さい。

新緑の氷ノ山林道ウォーク・小雨の中で開催

当治山林道協会と県（治山課・但馬高原林道建設事務所）が共催で実施している瀞川・氷ノ山林道での自然観察ウォーキングを、今年も、さる5月25日㈮に新緑の氷ノ山林道で開催しました。

前日まで好天が続いていたのに、当日だけが朝から雨模様となり、参加者の皆様には大変申し訳ない気持ちで一杯でした。平成15年から続けてきたこのウォーキングも、平成16年の紅葉ウォーキングを台風災害のため中止したのを除き、初めての雨天ウォーキングとなってしまいました。

雨天のため残念ながら急遽4名の方が欠席されましたが、三宮駅観光バスステーションを7：30に出発して、新神戸トンネル、阪神高速・北神戸線、六甲北、中国自動車道（三田～福崎）を経由して播但道で但馬路に入っていきました。

例年のことながら、当協会が発行した「瀞川・氷ノ山林道周辺・自然観察ガイドブック」をはじめ、県政や森林・林業に関連した冊子やパンフレットを十数種類配布しました。

これらの配付資料を基に、バスの中の時間を利用させて頂き、森林・林業についての理解を求めるとともに、兵庫県住宅再建共済制度への加入や2008年の姫路菓子博への参加をPRさせて頂きました。

バスは、播但道の道の駅「フレッシュあさご」で休憩を取り、ここから、林道自然観察ウォーキングのアドバイザーをお願いしている兵庫みどり公社の近藤講師に合流して頂きました。近藤講師からは、車内テレビを活用しスライドによる「氷ノ山林道周辺の自然」や「但馬の冬」等について分かり易くご説明を頂き、樹木や草花などの自然の移ろいや季節によって変容する但馬の美しさ等について感じて頂きました。

養父市大屋町の「あゆ公園」で、このウォーキングにご協力頂いている養父市のマイクロバス2台に乗り換え、横行渓谷の清流と緑を味わいながら氷ノ山林道へ向かいました。

雨に濡れた木々の緑が新緑を一層きわだたせ、横行渓谷のすばらしさをアピールしてくれました。氷ノ山林道では、比較的小雨であったため、原生のブナが身近で見られる「ブナ観察駅」附近から通称「額縁ブナ」方面へ散策し、新緑のブナ林を観察して頂きました。

例年で有ればこのシーズン、スズコ採りの車が林道沿いにたくさん駐車しているのですが、雨模様のため数台だけしか見かけませんでした。

昼食は、氷ノ山林道で最も眺望の素晴らしい大段ヶ平で取りました。それまで降っていた雨もお昼の時間だけは上がり野外で食事することが出来ました。

普段で有れば妙見山、三川山、鉢伏山をはじめ但馬の1千米を超す山並みがパノラマで眺望できる場所ですがこの日は遠望出来ませんでした。

しかし、鉢伏山方面の雲が一瞬の間ではありましたが、早い動きで上昇し山の稜線に日がさした時は素晴らしいと感動しておられました。

昼食後、雨が殆ど降っていなかったので、大段ヶ平から巨木谷への2㎞位を歩いて自然観察して頂きました。ピンクの花のタニウツギは例年より咲き方がやや遅い感じでしたが、樹冠一杯に房状の花を付けたトチノキの花やバスの中で説明のあったブナの葉脈の特徴など多くのことを観察できました。

ウォーキングを予定していた2箇所での行程を短縮した結果、若干の時間の余裕ができたため、鉢伏高原に上がり、別宮の大カツラを見ることとしました。別宮の大カツラは、数少ない雌株で、幹周670㎝、株周り1、553㎝、樹高25ｍで県指定天然記念物となっており、車道からも近いためか古くから多くの方に親しまれております。

また、車道下には別宮の棚田が開けており、棚田をとおしてみる氷ノ山の姿は素晴らしく写真撮影のポイントともなっています。

参加者の皆さんも、予定に入っていなかった大カツラを見ることができ、大変喜んで頂くことができました。

復路は、養父市小路頃で再び大型バスに乗り換え、国道9号線、和田山から北近畿豊岡道・舞鶴道を経由して三田に出て、18時頃三宮に帰ってきました。

次回は、好天を期待しつつ、紅葉の林道自然観察ウォーキングとして10月下旬に開催する予定です。

新緑のブナの観察

額縁ブナでの記念撮影

小雨の中の林道ウォーク

タニウツギの花

別宮の大カツラ

日本最大のお菓子の祭典
見て！食べて！憩えて！感動の24日間！
「姫路菓子博2008」前売券好評発売中！

2008年4月18日（金）～5月11日（日）までの24日間にわたり、姫路城周辺で開催される第25回全国菓子大博覧会・兵庫（姫路菓子博2008）の第1期前売券が4月27日から発売されています。

全国菓子大博覧会は明治44年に東京で「帝国菓子飴大品評会」として開催されて以来、約100年の歴史と伝統ある博覧会で、姫路城完成400年目、世界文化遺産登録15周年の記念すべき年を迎える兵庫・姫路で開催される、日本最大のお菓子の祭典です。会場では、和・洋工芸菓子で作られた姫路城や、全国47都道府県のお菓子、国内外の有名パティシエが作る菓子博オリジナルスイーツなどが登場。家族みんなで参加できるお菓子づくり教室も開催され、「見て！作って！食べて！」感動の24日間です。

前売券は、海外旅行など豪華商品が当たる懸賞や姫路城や好古園に半額で入場できる割引券、兵庫県内の人気観光施設の優待割引が受けられる特典つきで、JRみどりの窓口（JR西日本・JR四国）、山陽電車主要駅、旅行代理店およびチケットぴあ、コンビニなどで発売しています。

■会期：2008年4月18日(金)～5月11日(日)
■会場：姫路城周辺
■交通：JR姫路駅
山陽電車姫路駅から徒歩15分
■入場料金（消費税込）
小学生以下は入場無料（但し、大人の同伴・引率がある場合に限ります）
●大　人：満18歳以上の方（高校生の区分に該当する場合を除く）
●シニア：平成20年5月11日（博覧会閉幕日）時点の年齢が満65歳以上の方

問合せ：第25回全国菓子大博覧会・兵庫　兵庫県実行委員会事務局入場券販売管理本部
TEL：079-225-5221

券種		区分	第1期前売券 平成19年4月27日～10月31日	第2期前売券 平成19年11月1日～平成20年4月17日	当日券
普通入場券		大　人	1,500	1,800	2,000
		シニア	1,200	1,400	1,600
		高校生	1,000	1,200	1,400
		中学生	600	700	800
割引入場券	特別割引入場券	大　人	—	—	1,000
		シニア	—	—	800
		高校生	—	—	700
		中学生	—	—	400
	一般団体割引入場券	大　人	—	—	1,800
		シニア	—	—	1,400
		高校生	—	—	1,200
		中学生	—	—	700
	学校団体割引入場券	高校生	—	—	500
		中学生	—	—	300

協会だより

☆林業関係団体の総会のお知らせ

8月7日(火)　於：兵庫県農業共済会館7F　大会議室ほか
10時30分～：㈳兵庫県治山林道協会　通常総会
13時～　：兵庫県公有林野協議会　通常総会
14時～　：兵庫県緑資源造林協議会　通常総代会
8月30日(木)　於：不動産会館
10時30分～：兵庫県森林組合連合会　通常総会
13時～　：兵庫県林業種苗協同組合　通常総会
（注）場所・時間等の詳細は、各団体から追って通知されます。

編集後記

平成16年の台風23号など一連の台風災害については、治山・林道事業や風倒木被害対策事業が集中的に行われ、平成17・18年度の2カ年で概ね復旧が完了いたしましたが、これからも被害跡地での2次災害の発生が懸念されているところです。当協会も平成16年災害に関連して、この2カ年間、2億円を超す現場技術業務を受託し、県とともに災害復旧に努めてまいりました。

この間、例年の2倍におよぶ事業量となったため、大手コンサルタント会社等からの派遣や協会OB職員の支援を頂きながらの緊急体制で対応してまいりました。ご協力を頂きました関係各位に心からのお礼と感謝を申し上げます。

昨年から、談合や天下りなどが大きな問題となっており、県におきましても、随意契約の見直しや電子入札など入札制度の改革が進められてきました。

治山・林道事業の現場等技術業務につきましては、これまで全面的に当協会が受託し実施してきましたが、平成19年度からは、原則として、指名競争入札に移行し、技術や経験を要する治山事業の山腹工を当協会で担当させて頂くことになりました。

昨年、公益法人制度改革関連3法が公布され、内閣府に平成19年度から担当組織が設置され、平成20年後半には法が施行されますが、当協会も法に基づき公益社団法人を目指す方向で検討していますが、公益目的事業として認められる具体の事業区分や受託事業との整合性、会費との関連など不明の部分も多い現状です。

入札制度改革や公益法人制度改革など協会を取り巻く情勢には極めて厳しいものがありますが、森林・林業の重要性のPRや災害に強い森づくりをはじめ治山・林道・造林事業など森林の保全整備事業の積極的な推進を目指し頑張ってまいりますので、今後も、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

やまなみ　第22号　平成19年6月30日発行　社団法人兵庫県治山林道協会
神戸市中央区北長狭通5丁目5－18　TEL(078)371－0210　FAX(078)371－6632
編集責任者　中野一郎　印刷所　創文社

グリーンマーク
「やまなみ」には森林（もり）にやさしい再生紙を使用しています。